

恐竜を絶滅させた(?) 大規模火山活動

のうひりゅうもんがん ～濃飛流紋岩のすがた～

濃飛流紋岩は、一部が長野県にかかり、岐阜県内のかなり広い地域に分布する巨大な火山岩体である。その主体は火砕流堆積物からなり、その活動時期が恐竜の絶滅時期とほぼ一致する。そのため、恐竜絶滅の原因として巨大隕石衝突説と同様のプロセスで大規模火山活動の可能性が考えられ、それらにからめて濃飛流紋岩のすがたを紹介する。

講師：小井土 由光 氏（岐阜大学名誉教授）



日時：平成29年10月7日（土）

午後1時30分～午後3時

会場：美術博物館講堂

聴講無料・申込不要

小井土由光氏 1948年東京都生まれ。京都大学大学院地質学鉱物学専攻博士課程単位取得退学。理学博士（名古屋大学）。専門は地質学、教育内容学（理科教育）。岐阜大学名誉教授



△火道角礫岩



△溶結凝灰岩

お問い合わせ 飯田市美術博物館

〒395-0034 長野県飯田市追手町 2-655-7

TEL0265-22-8118 FAX0265-22-5252

<http://www.iida-museum.org/>